

**Pioneer** *sound.vision.soul*

オーディオマスターユニット

# AXM-P7

取扱説明書

目次 4ページ

**carrozeria**

# 必ずお読みください

## 安全のために必ずお守りください

### 絵表示について

この取扱説明書、取付説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

表示内容を無視して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



### 警告

この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。



### 注意

この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



注意

このような絵表示は、注意 (警告を含む) しなければならない内容です。



禁止

このような絵表示は、禁止 (やってはいけないこと) の内容です。



必ず行う

このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

# 安全上のご注意 (別冊の「安全上のご注意」もお読みください。)

## 警告

### [使用方法]

#### 運転中に操作をしない



禁止

画面を長く見る必要がある複雑な機能は、自動車の運転中に操作をしないでください。前方不注意となり交通事故の原因となります。操作は、必ず安全な場所に車を停車させて行ってください。また運転中、画面を注視する時間は必要最低限としてください。

#### 走行中にDVDなどを見ない



禁止

運転者がDVDなどを見る時は、必ず安全な場所に車を停車させてください。走行中にDVDなどを見ると前方不注意となり、交通事故の原因となります。

### [異常時の処置]

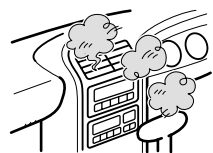
#### 故障のまま使用しない



禁止

画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

#### 異常のまま使用しない



禁止

万一、煙が出る・変なにおいがする・内部に異物が入った・水がかかったなど異常が起きましたら、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

#### ヒューズは規定容量のヒューズを使用する



必ず行う

ヒューズを交換するときは、必ず表示された規定容量のヒューズをご使用ください。規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

# 目次

## — CONTENTS

### 必ずお読みください

安全のために必ずお守りください	2
絵表示について	
安全上のご注意	

### はじめに

本機の特長	6
本機のデジタルソースと アナログソースについて	6
バッテリー上がりを防ぐために	7
50枚型マルチCDプレーヤーの 使用について	7
この説明書のみかた	8
各部の名称	9
本体	
リモコン	
リモコンの準備	12
リモコンの操作モード切り換え スイッチについて	12
リバースモードについて	13
ドルビーデジタル/DTSについて	13

### 共通の基本操作

電源をONにする	14
ソースを選ぶ	15
音量を調節する	16
電源をOFFにする	17

### マルチCDの操作

マルチCDの基本操作	18
ディスク選択/トラック選択/ 早送り・早戻し	
ファンクションモード・ 詳細設定モードの操作	20
ファンクションモードの切り換え	
詳細設定モードの切り換え	
リピート再生	
ランダム再生	
スキップ再生	
ITS入力	
ITS再生	
ITS消去 (1曲ごと)	
ITS消去 (CDごと)	
タイトル入力	
ディスクタイトル表示	
タイトル表示 (「CD TEXT」)	
タイトルリスト	
ポーズ	
CDの音質を調整する	

## 音の調節

音の調節	32
オーディオ調節のポイント	
モードの切り換えかた	33
オーディオ調節モードの切り換え	
オーディオ詳細設定モードの切り換え	
SFCで音場を再現する	
リスニングポジションを選ぶ	
前後左右の音量バランスを調節する	
各ソースの音量の違いをそろえる	
ダイナミックレンジコントロールを使う	
デュアルモノモードを使う	
オリジナルの音質で聞く	
ドルビープロロジックを使う	
接続したスピーカーの設定をする	
カットオフ周波数を設定する	
スピーカーレベルを調節する	
テストトーンで	
スピーカーレベルを調節する	
タイムアライメントを調節する	
イコライザーカーブを使う	

## 初期設定

初期設定モードの切り換えかた	48
初期設定	50
時計を合わせる	
夜間のディスプレイの	
明るさを切り換える	
ディスプレイの明るさを調節する	
音の歪みを補正する	
ミュート/アッテネート切り換え	
外部機器の音声を聞く	
外部機器の名称を入力する	
デジタル入力を設定する	
アナログ入力を設定する	
デジタル/アナログ入力の名称を入力する	

## その他の機能

その他の機能	56
瞬時に音量を小さくする	
時計を表示させる	
エンタテインメントを表示させる	
リモコンコードの設定	
デジタル出力の情報を表示させる	

## 付録

故障かな？と思ったら	60
こんなメッセージが	
表示されたら	62
保証書とアフターサービス	63
仕様	64

## 本機の特長

本機は、別売の5.1ch対応・DSPユニット(「DEQ-P7」)を接続し、操作するために使用します。本機と、別売の5.1ch対応・DSPユニット(「DEQ-P7」)、および別売のパイオニア製ナビゲーションユニット(「AVIC-XH9」など)や、パイオニア製DVDプレーヤー(「XDV-P9II」など)を組み合わせると、5.1チャンネルで収録された映画/音楽のDVDを臨場感豊かに再現することができます。また、本機は一般のカーステレオやその他の製品と接続するためのスピーカー入力端子とRCA入力端子を装備しています。本機と一般のカーステレオやその他の製品を接続することで、5.1ch対応・DSPユニット(「DEQ-P7」)の持つ、さまざまなオーディオ機能を使用することができます。

本機に付属のリモコンで、別売のパイオニア製ナビゲーションユニット、パイオニア製DVDプレーヤー、パイオニア製マルチCDプレーヤー、パイオニア製ヘッドユニットなどの操作をすることができます。

## 本機のデジタルソースとアナログソースについて

本機には、2種類のデジタルソースと、6種類のアナログソースがあります。それぞれを使い分けることで、各ソースごとに別売の5.1ch対応・DSPユニット(「DEQ-P7」)の持つさまざまなオーディオ機能を、ソースごとに使い分けることができます。

### デジタルソースについて

本機に、パイオニア製DVDプレーヤー(「XDV-P9II」など)をIP-BUSケーブルで接続し、「DEQ-P7」とパイオニア製DVDプレーヤー(「XDV-P9II」など)を光ケーブルで接続している場合、デジタルソースはDVDプレーヤーとして使用することができます。この場合、ディスクの種類ごとに「DEQ-P7」のオーディオ機能を使用することができます。

- ・ビデオCDとCDは同じ設定になります。

「DEQ-P7」と、パイオニア製ナビゲーションユニット(「AVIC-XH9」など)を光ケーブルで接続している場合は、Digital1(デジタルソース1)とDigital2(デジタルソース2)の2種類のソースを使い分けることができます。

パイオニア製ナビゲーションユニットでDVDを再生しているときはDigital1(デジタルソース1)を、ビデオCDやCDを再生しているときはDigital2(デジタルソース2)を使用すると、「DEQ-P7」の機能を使い分けることができます。

- ・パイオニア製ナビゲーションユニットと接続した場合は、本機のデジタル入力設定をONにしてください。(54ページ)
- ・デジタルソースは名称を変更することができます。接続した製品にあわせて名称を変更すると、デジタルソースを使い分けるときに便利です。

## アナログソースについて

本機のスピーカー入力端子や、RCA入力端子に接続した製品を、アナログソースとして使用することができます。アナログソースには、スピーカー出力端子や、RCA出力端子を装備した製品を接続することができます。例えば、ラジオとカセットの2つのソースを持ったパイオニア製ヘッドユニットを接続した場合は、ラジオをAnalog1（アナログソース1）、カセットをAnalog2（アナログソース2）のように設定すると、本機で別のソースとして使い分けることができます。

- ・アナログソースは名称を変更することができます。接続した製品にあわせて名称を変更すると、アナログソースを使い分けるときに便利です。

- ・アナログソースとして接続した製品が、複数のソースを装備している場合は、接続した製品と本機のそれぞれでソース切り換えを行ってください。また、本機ではアナログソースとして接続した市販の製品を操作することはできません。
- ・アナログソースとして接続した製品の音量を上げすぎると、音声为正しく出力されない場合があります。また、アナログソースとして接続した製品に、イコライザー、ラウドネスなどの音質調整機能がある場合は、全てOFFにしてください。
- ・アナログソースとして接続したい製品が、スピーカー出力端子およびRCA出力端子の両方を装備している場合は、RCA出力端子と接続してください。

## バッテリー上がりを防ぐために

本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。エンジンがかかっていないときに本機を使用すると、バッテリーが消耗します。

## 50枚型マルチCDプレーヤーの使用について

本機では、50枚型マルチCDプレーヤーの取扱説明書に記載されている50枚型マルチCDプレーヤー特有の機能を操作することはできません。本機で操作できるのは、本書に記載されている機能のみです。

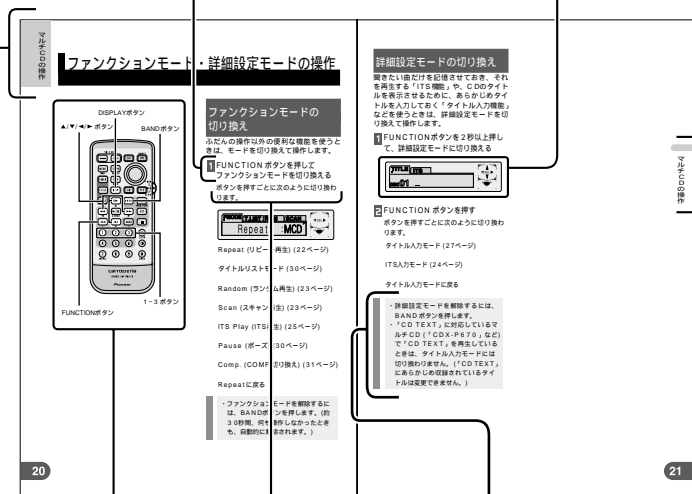
# この説明書のみかた

章の見出しです。

操作方法が書いてあります。

画面表示です。

章の見出しです。



操作するボタンです。

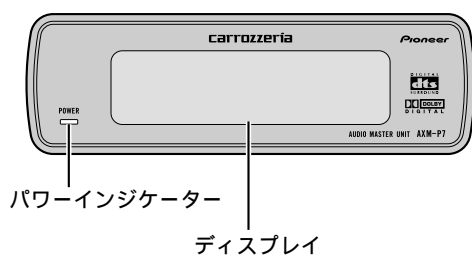
知っておくと便利なことなどが書いてあります。

操作の結果が書いてあります。



# 各部の名称

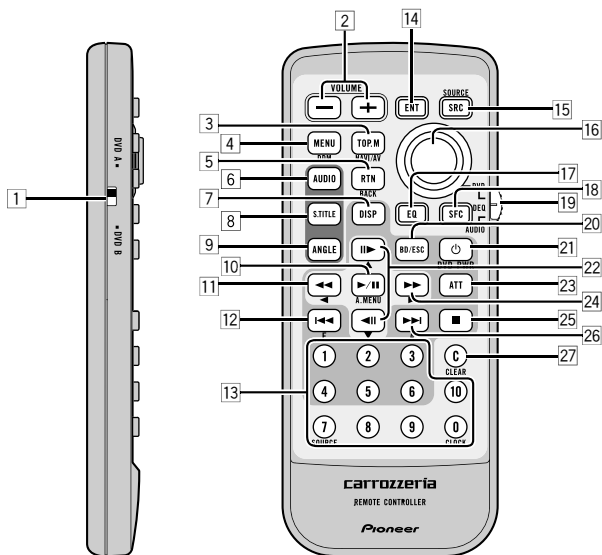
## コントローラーユニット



# 各部の名称

## リモコン

本機に付属のリモコンは、リモコンの操作モードによって、ボタンの機能が異なります。下記をご参照のうえ、リモコンの操作モードに対応した、正しいボタンを使用してください。  
 ・操作モードによって機能が異なる場合は、それぞれの操作モードに対応したボタン名称を記載してあります。接続した機器に対応したボタンで操作してください。



① リモコンコード切り換えスイッチ  
(58 ページ)

② VOLUME ボタン

③ TOP MENU ボタン

DVD モード： TOP MENU ボタン

DEQ モード： V.SEL ボタン

AUDIO モード： TOP MENU ボタン

④ MENU ボタン

DVD モード： MENU ボタン

DEQ モード： MENU ボタン

AUDIO モード： DOUBLE DISPLAY  
MODE ボタン

⑤ リターン  
RETURN ボタン

DVD モード： RETURN ボタン

DEQ モード： RETURN ボタン

AUDIO モード： BACK ボタン

⑥ オーディオ  
AUDIO (マルチ音声) ボタン  
(DVD 再生時のみ使用できます)

⑦ ディスプレイ  
DISPLAY ボタン

⑧ サブタイトル  
SUBTITLE (マルチ字幕) ボタン  
(DVD 再生時のみ使用できます)

⑨ アンクル  
ANGLE (マルチアンクル) ボタン  
(DVD 再生時のみ使用できます)

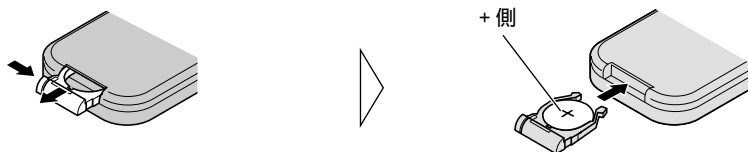
- 10 再生/一時停止 (▶/⏸) ボタン  
 DVDモード： ▶/⏸ ボタン  
 DEQモード： 無効  
 AUDIOモード： AUDIO MENU ボタン
- 11 早戻し (◀◀)/◀ ボタン  
 DVDモード： ◀◀ ボタン  
 DEQモード： ◀ ボタン  
 AUDIOモード： ◀ ボタン
- 12 スキップ (◀◀)/FUNCTION ボタン  
ファンクション  
 DVDモード： ◀◀ ボタン  
 DEQモード： FUNCTION ボタン  
 AUDIOモード： 無効
- 13 数字 (0 ~ 10) ボタン  
 DVDモード： 数字 (0 ~ 10) ボタン  
 DEQモード：  
 1 ~ 6 ボタン： 1 ~ 6 ボタン  
 7 ボタン： SOURCE ボタン  
 (パイオニア製ヘッド  
 ユニットなどのソース  
 切り換えができます。)  
 0 ボタン： CLOCK ボタン  
 AUDIOモード：  
 7 ボタン： SOURCE ボタン  
 (パイオニア製ヘッド  
 ユニットなどのソース  
 切り換えができます。)  
 0 ボタン： CLOCK ボタン
- 14 エンタテインメント  
 ENTERTAINMENT ボタン  
ソース
- 15 SOURCE ボタン
- 16 ジョイスティック  
 DVDモード： ジョイスティック  
 DEQモード： ジョイスティック  
 AUDIOモード： 無効  
イコライザー
- 17 EQ ボタン  
サウンドフィールドコントロール
- 18 SFC ボタン
- 19 操作モード切り換えスイッチ  
 (19 ページ)
- 20 バンド/エスケープ  
 BAND/ESC ボタン  
DVD パワー
- 21 DVD PWR ボタン  
 DVDモード： DVD PWR ボタン  
 DEQモード： 無効  
 AUDIOモード： 無効
- 22 コマ送り (▶▶)/▲ ボタン  
 コマ戻し (◀◀)/▼ ボタン  
 DVDモード： ▶▶/◀◀ ボタン  
 DEQモード： ▲/▼ ボタン  
 AUDIOモード： ▲/▼ ボタン  
アッテネーター
- 23 ATT ボタン  
 (158 ページ)
- 24 早送り (▶▶)/▶ ボタン  
 DVDモード： ▶▶ ボタン  
 DEQモード： ▶ ボタン  
 AUDIOモード： ▶ ボタン
- 25 停止 (■) ボタン  
 DVDモード： ■ ボタン  
 DEQモード： 無効  
 AUDIOモード： 無効
- 26 オーディオ  
 スキップ (▶▶)/AUDIO ボタン  
 DVDモード： ▶▶ ボタン  
 DEQモード： AUDIO ボタン  
 AUDIOモード： 無効  
クリアー
- 27 CLEAR ボタン  
 DVDモード： CLEAR ボタン  
 DEQモード： 無効  
 AUDIOモード： 無効

## リモコンの準備

付属のリモコンを使うための準備です。

### リモコンに電池を入れる

電池ホルダーを取り出し、リチウム電池 (CR2025) を図のようにしてセットします。はじめてお使いになるときは、電池ホルダー部から出ているフィルムを引き抜いてください。電池があらかじめセットされていますので、すぐにお使いいただくことができます。



リモコンの操作可能範囲が狭くなったときは、新しい電池と交換してください。

- ・ リモコンを直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障する恐れがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- ・ 本体に直射日光が当たっていると、リモコンの操作ができないときがあります。このようときは、本体にリモコンを近づけて操作してください。
- ・ 付属の電池は、充電しないでください。
- ・ リモコンを長い間使わないときは、電池を取り出してください。取り出した電池は、幼児の手の届かないところに保管してください。
- ・ 電池の液もれが起こったときは、内部についた液をよくふき取ってから、新しい電池と入れ換えてください。
- ・ 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示 ( 条例 ) に従って処理してください。

## リモコンの操作モード切り換えスイッチについて

本機に付属のリモコンには、DVD モード、DEQ モード、AUDIO モードの 3 つの操作モードがあります。

### DVD モードについて

リモコンの操作モードを DVD モードにすると、パイオニア製 DVD プレーヤーの操作、設定の切り換えなどを、本機に付属のリモコンで行うことができます。

## DEQ モードについて

リモコンの操作モードをDEQモードにすると、5.1ch対応・DSPユニット(「DEQ-P7」)の操作を、本機に付属のリモコンで行うことができます。また、パイオニア製マルチCDプレーヤーや、パイオニア製TVなどを接続したときは、本機のリモコンで操作することができます。

## AUDIO モードについて

リモコンの操作モードをAUDIOモードにすると、パイオニア製ナビゲーションユニットや、パイオニア製ヘッドユニットなどの基本的な操作を行うことができます。

・本機に付属のリモコンでは、スピーカー入力端子やRCA入力端子に接続した、市販の製品を操作することはできません。

## リバースモードについて

リバースモードは、各ソースを聞いているときに約30秒間操作しないと画面が自動的に反転する機能です。

リバースモードを解除したいときは、車のイグニッションスイッチがON(またはACC)のときに本機の電源をOFFにして、リモコンの5のボタンを押してください。もう一度押すとONになります。

## ドルビーデジタル/DTSについて



ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。



DTSは米国 Digital Theater Systems, Inc.の登録商標です。

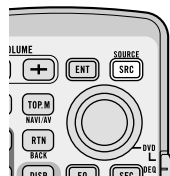
## 著作権について

本機は、マクロビジョンコーポレーションおよび他の権利保有者が所有する合衆国特許および知的所有権によって保護された、著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用にはマクロビジョンコーポレーションの許可が必要であり、同社の許可がない限りは一般家庭及びそれに類似する限定した場所での視聴に制限されています。解析や改造は禁止されていますので行わないでください。

# 電源を ON にする

電源 ON

- 1 SOURCE ボタンを押す  
電源が ON になります。



## リアシートからの操作

- 1 本機のリモコンが DVD モードのときに、  
DVD PWR ボタンを押す  
DVD プレーヤーの電源が ON になります。



- ・本機で DVD プレーヤー以外のソースを選んでいるときでも、DVD PWR ボタンを押して DVD プレーヤーの再生を ON にすると、リアモニターで本機の映像を見ることができます。
- ・本機の電源の ON/OFF にかかわらず、DVD プレーヤーの再生を ON/OFF することができます。

### 1 SOURCE ボタンを押す

SOURCE ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

Digital1 (デジタルソース 1) (別売)

Digital2 (デジタルソース 2) (別売)

TV (テレビ) (別売) DVD (1 枚型 DVD/マルチ DVD) (別売)

Multi CD (マルチ CD) (別売) AUX (外部機器) (別売)

Analog1 (アナログソース 1) (別売) Analog2 (アナログソース 2) (別売)

Analog3 (アナログソース 3) (別売) Analog4 (アナログソース 4) (別売)

Analog5 (アナログソース 5) (別売) Analog6 (アナログソース 6) (別売)

- ・ 本機にパイオニア製 DVD プレーヤー (「XDV-P9II」など) を IP-BUS ケーブルで接続したときは、Digital1 と Digital2 には切り換わりません。パイオニア製 DVD プレーヤー (「XDV-P9II」など) は、DVD として使用することができます。
- ・ 本機にパイオニア製ナビゲーションユニット (「AVIC-XH9」など) を接続したときは、Digital1 と Digital2 に割り当てることができます。この場合、Digital (デジタルソース) の設定 (54 ページ) を ON にしないと、Digital1 と Digital2 には切り換わりません。(Digital1 は初期設定で ON になっています。)
- ・ 本機にパイオニア製 DVD プレーヤー (「XDV-P9II」など) とパイオニア製ナビゲーションユニット (「AVIC-XH9」など) を同時に接続することはできません。
- ・ 接続していないソースには切り換わりません。
- ・ ディスクやマガジンがセットされていないときは、そのソースには切り換わりません。
- ・ AUX (外部機器) の設定 (53 ページ) を ON にしないと、AUX には切り換わりません。
- ・ 本機にパイオニア製ナビゲーションユニット (「AVIC-XH9」など) を接続している場合、本機の AUX (外部機器) の設定 (53 ページ) を ON にし、ソース切り換えで AUX ソースにすると、ナビゲーションの音声、車両のスピーカーから出力されます。
- ・ Analog (アナログソース) の設定 (54 ページ) を ON にしないと、Analog には切り換わりません。
- ・ 以下の状態のときは、SOURCE ボタンを押してソース選択しようとしても、警告音が鳴り、ソース切り換えができません。
  - ソースが一つも接続されていない場合
  - パイオニア製 DVD プレーヤー (「XDV-P9II」, 「SDV-P7」など) だけを接続していて、DVD プレーヤーにマガジンやディスクがセットされていない場合。

## テレビ、マルチ MD を接続したときは

操作のしかたは、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

- ・ テレビ (「AVX-P777」など) の取扱説明書では、本機以外の製品を例にして、操作を説明している場合があります。その製品と対応しているボタンで操作を行ってください。
- ・ 本機は、マルチ MD (「MD-P100II」など) をエクスターナルユニットとして操作することができます。操作のしかたは、マルチ MD の取扱説明書の「メインユニット③」を参照してください。

## 1 枚型 DVD、マルチ DVD を接続したときは

操作のしかたは、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

1 枚型 DVD (「SDV-P7」など)、マルチ DVD (「XDV-P9II」など) の取扱説明書では、本機以外の製品を例にして、操作を説明している場合があります。その製品と対応しているボタンで操作を行ってください。

本機で 1 枚型 DVD、マルチ DVD を操作する場合は、◀/▶ ボタンの機能が異なります。

▶ : 次のチャプター (トラック) を選ぶとき (または早送り)

◀ : 前のチャプター (トラック) を選ぶとき (または早戻し)

### チャプター (トラック) 選択と早送り/早戻しの使い分け

チャプター (トラック) の選択	0.5 秒未満
早送り/早戻し	0.5 秒以上

再生するディスクの種類によって、ファンクションモード切り換えが異なります。本機に付属のリモコンの FUNCTION ボタンを押すごとに、以下のように切り換わります。

#### DVD の場合

リピートモード   ポーズモード   リピートモードに戻る

#### ビデオ CD の場合

リピートモード   ポーズモード   リピートモードに戻る

#### CD の場合

リピートモード   ランダムモード   スキャンモード   ポーズモード   リピートモードに戻る

## 音量を調節する

音量調節

### 1 VOLUME ボタンを押す

+: 大きくするとき

-: 小さくするとき

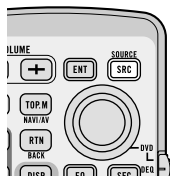




# 電源を OFF にする

電源 OFF

- 1 SOURCE ボタンを 1 秒以上押す  
電源が OFF になります。



## リアシートからの操作

- 1 本機のリモコンが DVD モードのときに、  
DVD PWR ボタンを押す  
電源が OFF になります。

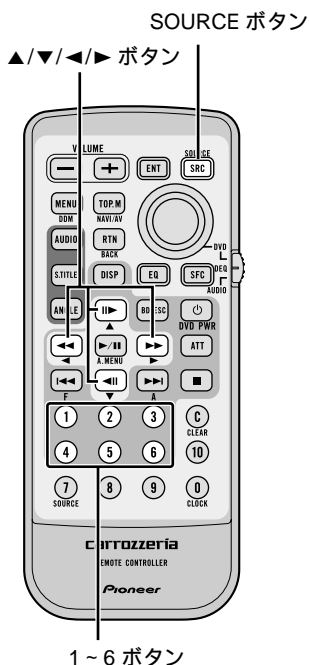


## マルチCDの操作

## マルチCDの基本操作

## リモコンの操作モードがDEQモードの場合

- ・リモコンの操作モードがDEQモードの場合、マルチCDの操作をすることができます。  
リモコンの操作モードがDVDモードやAUDIOモードの場合は操作ができません。

ディスク選択/トラック選択/  
早送り・早戻し

- 1 SOURCE ボタンを押して、ソースをマルチCDに切り換える  
(「ソースを選ぶ」15ページ)

「CD TEXT」に対応しているマルチCDプレーヤー(「CDX-P670」など)に「CD TEXT」をセットしているときは、他のソースからマルチCDに切り換えたときに、曲名を自動的に1回スクロール表示します。



- 2 ▲または▼ボタンを押して聞きたいCDを選ぶ

- ▲ : 次のCDを選ぶとき
- ▼ : 前のCDを選ぶとき

1~6ボタンを押して、聞きたいCDを選ぶこともできます。7~12枚目のCDを選ぶ場合は、1~6のボタンを2秒以上押します。



CD 番号

**3** ◀または▶ ボタンを押して、再生したいトラックを選ぶ (または早送り/早戻し)

▶ : 次のトラックを選ぶとき  
(または早送り)

◀ : 前のトラックを選ぶとき  
(または早戻し)

トラック選択と早送り/早戻しの使い分け	
トラックの選択	0.5 秒未満
早送り/早戻し	0.5 秒以上



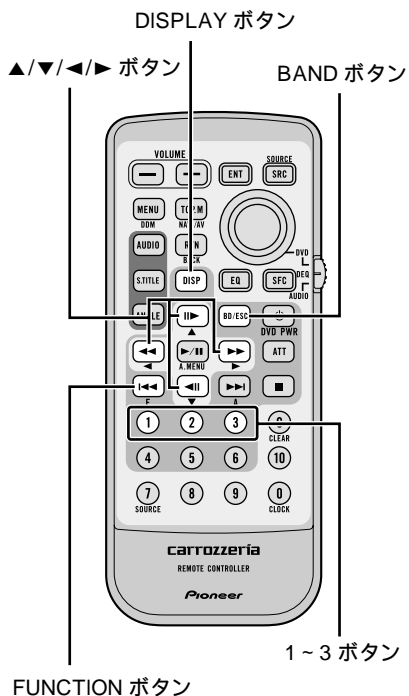
再生経過時間 曲番号

**4** マルチCDの再生をやめる

他のソースに切り換えるか、電源OFFにしてください (15、17 ページ)。

- ・マルチCDが準備動作 (CDの有無の確認やCDの情報の読み込みなど) をしている場合があります。このとき、ソースをマルチCDに切り換えると“Ready”が表示されます。
- ・マルチCD再生中にマルチCDからマガジンを取り出すと、“NO MAGAZINE”が表示されます。

# ファンクションモード・詳細設定モードの操作



## ファンクションモードの切り換え

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

- 1 FUNCTION ボタンを押して、ファンクションモードを切り換えるボタンを押すごとに次のように切り換わります。



Repeat (リピート再生) (22 ページ)

タイトルリストモード (30 ページ)

Random (ランダム再生) (23 ページ)

Scan (スキャン再生) (23 ページ)

ITS Play (ITS 再生) (25 ページ)

Pause (ポーズ) (30 ページ)

Comp. (COMP 切り換え) (31 ページ)

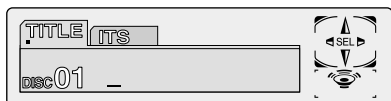
Repeat に戻る

- ・ファンクションモードを解除するには、BAND ボタンを押します。(約 30 秒間、何も操作しなかったときも、自動的に解除されます。)

## 詳細設定モードの切り換え

聞きたい曲だけを記憶させておき、それを再生する「ITS機能」や、CDのタイトルを表示させるために、あらかじめタイトルを入力しておく「タイトル入力機能」などを使うときは、詳細設定モードを切り換えて操作します。

- 1 FUNCTION ボタンを2秒以上押して、詳細設定モードに切り換える



- 2 FUNCTION ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

タイトル入力モード (27 ページ)

ITS入力モード (24 ページ)

タイトル入力モードに戻る

- ・ 詳細設定モードを解除するには、BAND ボタンを押します。
- ・ 「CD TEXT」に対応しているマルチCD (「CDX-P670」など) で「CD TEXT」を再生しているときは、タイトル入力モードには切り換わりません。(「CD TEXT」にあらかじめ収録されているタイトルは変更できません。)

## リピート再生

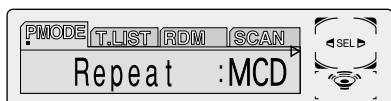
今聞いている曲を繰り返し聞いたり、1枚のCDを繰り返し聞くなど、繰り返し再生する範囲を選ぶことができます。

### 再生範囲について

再生範囲（繰り返し聞く範囲）は、次の中から選ぶことができます。

再生範囲	リピート再生の内容
ディスクリピート	マルチCDにセットされているすべてのCDを通して再生します。(通常はこのモードにしておきます。)
トラックリピート	再生中のトラックを繰り返し再生します。
ディスクリピート	再生中のCDを繰り返し再生します。

- 1 FUNCTION ボタンを押して、リピートモードを選ぶ



- 2 ◀または▶ ボタンを押して再生範囲を切り換える



ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

TRK (トラックリピート)

DISC (ディスクリピート)

MCD (マルチCDリピート)

TRK (トラックリピート) に戻る

- 3 BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除する

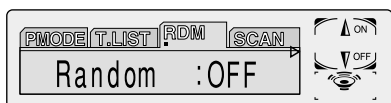
## ランダム再生

選曲をマルチCDにまかせて、いつもと違う曲順（ランダム）で再生することができます。

- 1 リpeatモードにして、再生範囲を選ぶ

選んだ再生範囲内でランダム再生が行われます。

- 2 FUNCTION ボタンを押して、ランダムモードを選ぶ



- 3 ▲ボタンを押して、ランダム再生をONにする

次の曲から、ランダムに再生されます。

▼ボタンでOFFになります。



- 4 BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除する

表示と再生範囲の関係は、次のようになっています。

表示	再生範囲
D.RANDOM	ディスクリピート
RANDOM	マルチCDリピート

- ・トラックリピートのときに、ランダム再生をONにすると、再生がディスクリピートに切り換わり、ランダム再生します。

## スキャン再生

今聞いているCDの曲の始めの部分だけを、約10秒間ずつ次々に聞くことができます。また、全てのCDの1曲目の部分だけを次々に聞くこともできます。

- 1 リpeatモードにして、再生範囲を選ぶ

選んだ再生範囲内でスキャン再生が行われます。

聞きたい曲をさがすとき  
(トラックスキャン再生)

◀または▶ボタンを押して、  
ディスクリピートにする

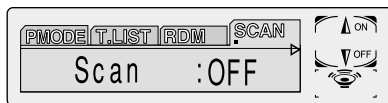
再生中のCDの全曲を、約10秒ずつ再生することができます。

聞きたいCDをさがすとき  
(ディスクスキャン再生)

◀または▶ボタンを押して、  
マルチCDリピートにする

マルチCDのマガジン内すべてのCDの1曲目だけを、約10秒ずつ再生することができます。

- 2 FUNCTION ボタンを押して、スキャンモードを選ぶ



次ページへつづく

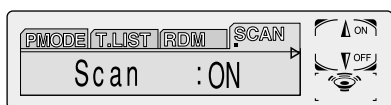
### 3 ▲ ボタンを押してスキャン再生をONにする

曲の始めの約 10 秒間が次々に再生されます。

スキャン再生を始めて約 30 秒たつと、自動的にファンクションモードが解除されます。

表示と再生範囲の関係は、次のようになっています。

表示	再生範囲
T.SCAN	ディスクリピート
D.SCAN	マルチCDリピート



### 4 聞きたい曲 (CD) が再生されたら、スキャンモードにしてから、▼ボタンを押して、スキャン再生をOFFにする

ファンクションモードが解除されていたら、手順 1 の操作を行ってもう一度スキャンモードにしてから、スキャン再生をOFFにしてください。



### 5 BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除する

- ・スキャン再生を始めた曲 (または CD) まで戻るとスキャン再生は解除されます。

## ITS入力

記憶させた曲だけ再生する (「ITS 再生」) ために、あらかじめ聞きたい曲をマルチ CD に記憶させておきます。

### ITSについて

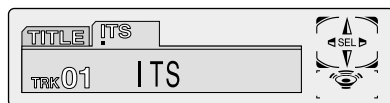
ITSとは、Instant Track Selection (インスタントトラックセレクション) の略です。

ITSは、聞きたい曲だけを記憶させておき、それを再生する (「ITS 再生」) 機能です。

- ・曲の記憶はCDごとに行われます。CDを入れ換えても、そのCDの記憶は消えません。
- ・CD 1 枚につき 99 曲まで記憶することができます。(CDX-P1250、CDX-P650 以前に発売されたマルチCDでは記憶できる曲が 24 曲までになります。)
- ・ITSは、タイトル (「タイトル入力」27 ページ) と合わせて CD 100 枚分の記憶ができます。
- ・100 枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消えて、新しいCDが記憶されます。

### 1 ▲ または▼ボタンを押して、記憶させたいCDを再生する

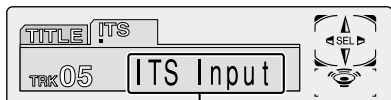
### 2 FUNCTION ボタンを 2 秒以上押してから、FUNCTION ボタンを押して、ITS 入力モードを選ぶ





- 3 ◀または▶ ボタンを押して、記憶させたい曲を選ぶ

- 4 ▲ ボタンを押して、記憶させる



約 2 秒間表示され、記憶したことを知らせます。

- 5 BAND ボタンを押して、詳細設定モードを解除する

## ITS 再生

ITS 入力で記憶させた曲だけを再生することができます。

- 1 リピートモードにして、再生範囲を選ぶ (22 ページ)

選んだ再生範囲内で ITS 再生が行われます。

- 2 FUNCTION ボタンを押して、ITS 再生モードにする



- 3 ▲ ボタンを押して、ITS 再生を ON にする

ITS 再生がはじまり、記憶させた曲だけが再生されます。▼ ボタンで OFF になります。



- 4 BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除する

- ・手順 1 で選んだ再生範囲内に、記憶させた曲がない場合は、“EMPTY” が約 2 秒間表示されて、ITS 再生は行われません。

## ITS消去 (1曲ごと)

記憶させた曲を1曲ずつ消すことができます。

- 1 ITS再生をONにする
- 2 ◀または▶ボタンを押して、消したい曲を再生する (19ページ)
- 3 FUNCTIONボタンを2秒以上押ししてから、FUNCTIONボタンを押して、ITS入力モードを選ぶ



- 4 ▼ボタンを押して、消去する  
再生していた曲が消去され、次に記憶されている曲が再生されます。



次に記憶されている曲

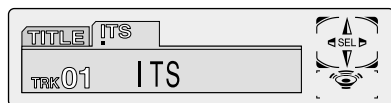
- 5 BANDボタンを押して、詳細設定モードを解除する

・現在の再生範囲内に記憶させた曲がなくなった場合は、“ITS Empty”が約2秒間表示されて、ITS再生がOFFになります。

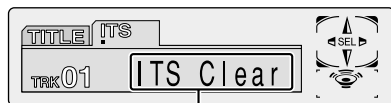
## ITS消去 (CDごと)

記憶させた曲をCDごとに消すことができます。

- 1 ITS再生をOFFにする
- 2 ▲または▼ボタンを押して、消したいCDを選ぶ (18ページ)
- 3 FUNCTIONボタンを2秒以上押ししてから、FUNCTIONボタンを押して、ITS入力モードを選ぶ



- 4 ▼ボタンを押して、消去する



約2秒間表示され、消去されたことを知らせます。

- 5 BANDボタンを押して、詳細設定モードを解除する

## タイトル入力

CDのタイトルを入力することができます。また、入力したタイトルは、ディスプレイに表示させることができます。

### タイトル入力について

タイトル入力は、CDのタイトルを入力して記憶させておき、ディスプレイに表示させる機能です。

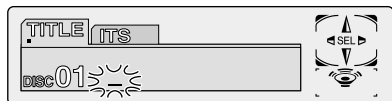
CDにタイトルをつけるとタイトルリスト(「タイトルリスト」30ページ)で聞きたいCDをさがすこともできます。

「CD TEXT」に対応しているマルチCD(「CDX-P670」など)では、「CD TEXT」にあらかじめ収録されているCDタイトルと同様にタイトルリスト(「タイトルリスト」30ページ)をすることができます。

- ・タイトルは10文字まで入力できます。
- ・記憶はCDごとに行われます。CDを入れ換えても、そのCDの記憶は消えません。
- ・タイトルは、ITS(「ITS入力」24ページ)と合わせてCD100枚分の記憶ができます。
- ・100枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されます。
- ・「CD TEXT」に対応しているマルチCD(「CDX-P670」など)で「CD TEXT」を再生しているときは、タイトル入力モードには切り換わりません。(「CD TEXT」にあらかじめ収録されているタイトルは変更できません。)

**1** ▲または▼ボタンを押して、タイトルを入力したいCDを再生する(18ページ)

**2** FUNCTIONボタンを2秒以上押してから、FUNCTIONボタンを押して、タイトル入力モードを選ぶ

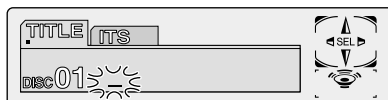


**3** ▲/▼/◀/▶ボタンを押して、タイトルを入力する

入力する位置を選ぶとき

◀ : 左に移動させるとき

▶ : 右に移動させるとき



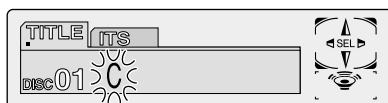
入力する位置でカーソルが点滅します。

10文字まで入力できます。

入力する文字を選ぶとき

▲ : 次の文字を選ぶとき

▼ : 前の文字を選ぶとき



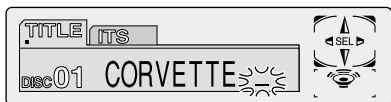
選んだ文字が点滅します。

押すボタンと選べる文字の関係は、次のようになっています。

押すボタン	選べる文字
1ボタン (1ボタンを押すごとに切り換わります)	アルファベットの小文字 (a~z)
2ボタン	アルファベットの 大文字(A~Z)、数字(0~9)、 記号(!、#、&など)、 空白(_)
3ボタン (3ボタンを押すごとに切り換わります)	数字(0~9)、 記号(!、#、&など)、 空白(_)
3ボタン (3ボタンを押すごとに切り換わります)	カタカナ(ア~ン)、 音引き(-)、空白(_)
3ボタン (3ボタンを押すごとに切り換わります)	拗促音(ア、ヨ、ツなど)、 (A~Z)、数字(0~9)、 空白(_)

次ページへつづく

- 4 入力が終わったら、10文字目を点滅させる



余ったところを空白にして、10文字目を点滅させます。

- 5 ▶ ボタンを押して、入力したタイトルを記憶させる



入力位置の点滅が終わり、入力したタイトルが記憶されます。

- 6 BAND ボタンを押して、タイトル入力モードを解除する

・タイトル入力中（文字が点滅しているとき）にBAND ボタンを押すと、詳細設定モードが途中で解除されます。（この場合、入力中のタイトルは記憶されません。）

## ディスクタイトル表示

タイトル入力で入力したCDのタイトルを表示させることができます。

- 1 DISPLAY ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

再生経過時間表示

ディスクタイトル (Disc Title)

再生経過時間表示に戻る



## タイトル表示 (「CD TEXT」)

「CD TEXT」に対応しているマルチCD (「CDX-P670」など) で「CD TEXT」を再生しているとき、ディスクタイトル (ディスク名)、ディスクアーティストネーム (歌手名) などを表示させることができます。一度に全角で8文字、半角で16文字まで表示させることができます。また、隠れている文字も順に表示させることができます。

### 「CD TEXT」について

「CD TEXT」とは、CDのタイトル/歌手名/曲名などの文字情報が収録されたCDです。

ディスクタイトル面に下記マークの付いているCDは、「CD TEXT」です。(下記マークが付いていない「CD TEXT」もあります。)

本機はカナやアルファベットなどの表示だけでなく、ひらがなや漢字などの表示にも対応しています。「CD TEXT」に漢字などの文字情報が収録されている場合でも、本機ではそのまま表示することができます。



- ・表示を“Disc Title” (ディスク名)、“Track Title” (タイトル名) などに切り換えたときに、自動的に1回スクロール表示します。

## 表示切り換え

- 1 DISPLAY ボタンを押して、表示を切り換える

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

再生経過時間表示

ディスクタイトル (Disc Title)

ディスクアーティストネーム  
(DiscArtist Name)

トラックタイトル (Track Title)

トラックアーティストネーム  
(TrackArtist Name)

再生経過時間表示に戻る



- ・“TrackArtist Name” (トラックアーティストネーム) などが収録されていないCDで表示を切り換えると、“NO T-Artist Name” などが表示されます。

## 隠れている文字を表示する

- 1 DISPLAY ボタンを2秒以上押して、隠れているタイトルを表示する  
隠れている文字が順に表示されます。



隠れている文字が順に表示されていきます。

## タイトルリスト

CDのタイトルを見ながら、聞きたいCDを選ぶことができます。

- 1 FUNCTION ボタンを押して、タイトルリストモードにする



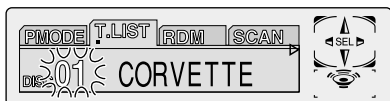
- 2 ◀または▶ ボタンを押して、聞きたいCDを選ぶ

- ▶ : 次のCDのタイトルを表示させるとき
- ◀ : 前のCDのタイトルを表示させるとき



記憶されているタイトルが表示されます。また、そのCDのCD番号が点滅します。

- 3 ▲ ボタンを押して、選んだCDを再生する



選んだCDが再生されます。

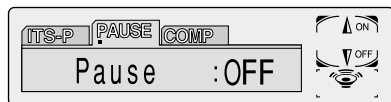
- 4 BAND ボタンを押して、タイトルリストモードを解除する

- ・タイトルが入力されていないCDでタイトルリストを行うと、“NO Title”が表示されます。

## ポーズ

CD再生を一時停止することができます。

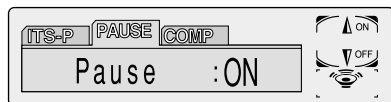
- 1 FUNCTION ボタンを押して、ポーズモードにする



- 2 ▲ ボタンを押して、ポーズをONにする

CD再生が一時停止します。

▼ ボタンでOFFになります。



- 3 BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除する



一時停止中に表示されます。

## CDの音質を調整する

大きな音と小さな音の音量差を小さくしたり、低音域を押し上げたりすることができます。(COMP/DBEに対応しているマルチCD(「CDX-P620S」など)の機能です。)

### Comp.について

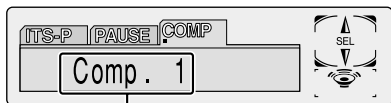
Comp.とは、Compression(コンプレッション)の略です。大きな音を抑え、小さな音を押し上げて、大きな音と小さな音の音量差を小さくする機能です。この機能は、小さな音が聞きとりにくいようなときにお使いになると便利です。

### DBEについて

DBEとは、Dynamic Bass Emphasis(ダイナミックバスエンファシス)の略です。DBEは、車内で不足しがちな低音域を押し上げる機能です。

## 1 FUNCTION ボタンを押して、Comp.切り換えモードにする

COMP/DBE機能のないマルチCDを組み合わせたときは、“No Comp.”が表示されて、操作ができません。



現在のCOMP/DBEの状態が表示されます。

## 2 ▲または▼ボタンを押して、機能を選ぶ

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

Comp. OFF

Comp. 1 (コンプレッション 1)

Comp. 2 (コンプレッション 2)

Comp. OFF

DBE 1

DBE 2

最初のComp. OFFに戻る

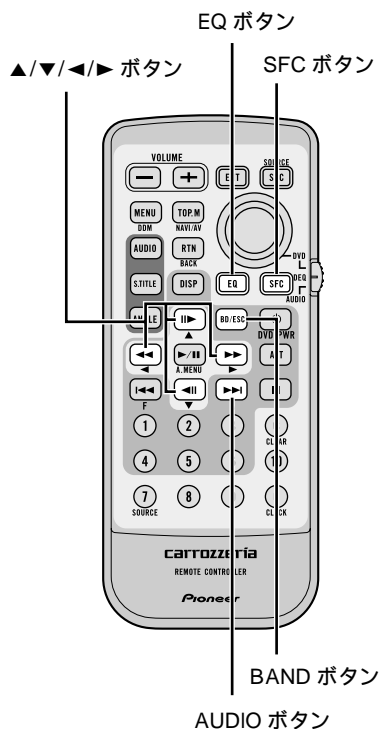
## 3 BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除する

- ・ Comp.、DBEともに1より2の方が効果が大きくなります。

## 音の調節

## リモコンの操作モードが DEQ モードの場合

- ・リモコンの操作モードが DEQ モードの場合、音の調節をすることができます。リモコンの操作モードが DVD モードや AUDIO モードの場合は操作ができません。



## オーディオ調節のポイント

次の順に設定や調節することで、きめ細かく好みの音場を創り出すことができます。

1. 接続したスピーカーの設定をする (39 ページ)
2. リスニングポジションを選ぶ (35 ページ)
3. タイムアライメントを調節する (44 ページ)
4. テストトーンでスピーカーレベルを調節する (43 ページ)
5. カットオフ周波数を設定する (41 ページ)
6. スピーカーレベルを調節する (42 ページ)
7. 3バンドパラメトリックイコライザーを調節する (45 ページ)



# オーディオ調節モード・詳細設定モードの操作

音の調節は、オーディオ調節モードと詳細設定モードを切り換えて操作します。

## オーディオ調節モードの切り換え

### 1 AUDIO ボタンを押して、オーディオ調節モードを切り換える

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

リスニングポジションモード  
(35 ページ)

音量バランス調節モード (35 ページ)

SLA モード (36 ページ)

ダイナミックレンジコントロールモード  
(36 ページ)

デュアルモノモード (37 ページ)

ダイレクトモード (37 ページ)

ドルビープロロジックモード  
(38 ページ)

リスニングポジションモードに戻る

- ・オーディオ調節モードを解除するには、BAND ボタンを押します。(約 30 秒間、何も操作しなかったときも、自動的に解除されます。) DVD ディスクを再生しているとき以外は、ダイナミックレンジモードやデュアルモノモードには切り換わりません。

## 詳細設定モードの切り換え

### 1 AUDIO ボタンを 2 秒以上押して、詳細設定モードにする

詳細設定モードに切り換わります。

### 2 AUDIO ボタンを押して、詳細設定モードを切り換える

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

スピーカー設定モード (39 ページ)

カットオフ周波数モード (41 ページ)

スピーカーレベル調節モード  
(42 ページ)

テストトーンモード (43 ページ)

タイムアライメント調節モード  
(44 ページ) <sup>1</sup>

イコライザー調節モード (45 ページ) <sup>2</sup>

スピーカー設定モードに戻る

- ・詳細設定モードを解除するには、BAND ボタンを押します。
  - <sup>1</sup> リスニングポジションモードで F/R か F/L を選んでいないと、タイムアライメント調節モードには切り換わりません。
  - <sup>2</sup> “CUSTOM1” または “CUSTOM2” 以外のイコライザーカーブを選んでいる場合、イコライザー調節モードには切り換わりません。

## SFCで音場を再現する

SFCでは、実際にその演奏会場にいるかのようなリアルな音場を再現することができます。

### SFC (Sound Field Control) について

演奏会場は、会場ごとに独特の雰囲気があります。これは、会場の広さや形状、残響特性が異なるため、直接音・初期反射音・残響音の長さや質が変化するためです。SFCには、このようなことを考慮した音場空間プログラムが設定されています。

#### 1 SFC ボタンを押して、SFC モードを切り換える



ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

Musical   Drama   Action   Jazz  
Hall   Club   OFF  
Musical に戻る

#### Musical

音楽ソフトやミュージカル系の映画の再生を楽しむのに適しています。

#### Drama

リアスピーカーの音と一体となって、1つの大きなスピーカーのように響くイメージで幅広いサラウンド感を再現します。また、直接音もしっかりと響き、ストーリー重視の映画を楽しむのに適しています。

#### Action

躍動感、スピード感に加え、爆発シーンの迫力を包み込むように再現します。アクションシーンの多い映画を楽しむのに適しています。

#### Jazz

ジャズクラブでの音場を再現します。ライブ録音の音声などを楽しむのに適しています。

#### Hall

コンサートホールの音場を再現します。残響音豊かな響きでクラシック音楽などを楽しむのに適しています。

#### Club

ディスコの音場を再現します。残響音が吸収されやすい音場を再現し、ビートの効いた音楽を楽しむのに適しています。

- ・ 2チャンネルのリニアPCMまたは2チャンネルのドルビーデジタルの音声で、5.1チャンネルに適したSFC (Musical、Drama、Action) を選んだ場合、ドルビープロロジックをONにすることをおすすめします。また、2チャンネルに適したSFC (Jazz、Hall、Club) を選んだ場合、ドルビープロロジックをOFFにすることをおすすめします。

## リスニングポジションを選ぶ

乗車位置や人数に合わせて、リスニングポジション（聞く位置）を選ぶことで、音像の定位を適切に補正することができます。

### リスニングポジションについて

リスニングポジションは、座席位置や人数に合わせて、自動的に各スピーカーから出る音の遅延時間とレベルを調節する機能です。SFCと組み合わせることで、全身を包むような豊かな音場を体験することができます。

#### 1 AUDIO ボタンを押して、リスニングポジションモードを選ぶ



#### 2 ▲/▼/◀/▶ ボタンを押して、リスニングポジションを選ぶ

- ▶：右ハンドル車に運転者のみがいるとき
  - ◀：左ハンドル車に運転者のみがいるとき
  - ▲：同乗者が助手席にいるとき
  - ▼：同乗者が後部座席にいるとき
- 同じボタンを押すごとに、ON/OFFが切り換わります。



#### 3 BAND ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する

- ・タイムアライメント（44ページ）を調節するには、リスニングポジションをF/RかF/Lのいずれかに設定してください。

## 前後左右の音量バランスを調節する

前後左右のスピーカーの音量バランスを調節することができます。

#### 1 AUDIO ボタンを押して、音量バランス調節モードを選ぶ



#### 2 ▲または▼ボタンを押して、前後の音量バランスを調節する

- ▲：前を強めるとき
- ▼：後ろを強めるとき

前後のバランスは、F25 ~ R25の範囲で調節できます。



#### 3 ◀または▶ボタンを押して、左右の音量バランスを調節する

- ▶：右を強めるとき
- ◀：左を強めるとき

左右のバランスは、L25 ~ R25の範囲で調節できます。



#### 4 BAND ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する

## 各ソースの音量の違いを そろえる

ソースを切り換えたとき音量に違いが出ないように、各ソースの音量の違いをそろえることができます。

- 1 SOURCE ボタンを押して、調節したいソースに切り換える  
(15 ページ)
- 2 AUDIO ボタンを押して、SLA モードを選ぶ



- 3 ▲または▼ボタンを押して、レベルを調節する

▲：レベルを大きくするとき

▼：レベルを小さくするとき

レベルは - 4 から + 4 の範囲で調節できます。



- 4 BAND ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する

- ・ SLA とは Source Level Adjuster (ソース レベル アジャスター) の略です。
- ・ テレビ、DVD、CD、AUX (外部機器)、デジタルソース、アナログソースのそれぞれの音量差を調節することができます。なお、ビデオ CD と CD、および Analog4、Analog5 と Analog6 は同じ設定になります。

## ダイナミックレンジ コントロールを使う

ダイナミックレンジとは、一番大きな音と一番小さな音との幅のことです。ダイナミックレンジコントロールは、この幅を圧縮することで、音量を下げて楽しむ場合に小さな音も聞きとりやすくすることができます。

- 1 AUDIO ボタンを押して、ダイナミックレンジコントロールモードを選ぶ



- 2 ▲ボタンを押して、ダイナミックレンジコントロールをONにする

▼ボタンでOFFになります。



- 3 BAND ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する

- ・ ダイナミックレンジコントロールの効果が得られるのは、ドルビーデジタル音声だけです。
- ・ DVD ディスクを再生しているとき以外、ダイナミックレンジコントロールモードには切り換わりません。
- ・ 本機と 5.1ch 対応・DSP ユニット (「DEQ-P7」) のセットに、別売の DVD-VIDEO 再生機能付きナビゲーションユニット (「AVIC-XH9」など) を接続して、5.1ch システムとしてご使用される場合、「DEQ-P7」およびナビゲーションシステムの DRC (ダイナミックレンジコントロール) は使用できません。

## デュアルモノモードを使う

デュアルモノモードで記録されたディスクを再生する場合、出力するデュアルモノチャンネルを選ぶことができます。

- 1 AUDIO ボタンを押して、デュアルモノモードを選ぶ



- 2 ◀または▶ ボタンを押して、出力するデュアルモノチャンネルを選ぶ

L&R (左右)、L (左)、R (右) の中から選ぶことができます。



- 3 BAND ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する

- ・ デュアルモノモードの効果が得られるのは、デュアルモノモード音声だけです。
- ・ DVDディスクを再生しているとき以外、デュアルモノモードには切り換わりません。

## オリジナルの音声で聞く

各種オーディオの設定を無効にすることができます。調整したオーディオ設定の効果を確かめるのに便利です。

- 1 AUDIO ボタンを押して、ダイレクトモードを選ぶ



- 2 ▲ ボタンを押して、ダイレクトモードをONにする

▼ ボタンでOFFになります。



- 3 BAND ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する

- ・ ダイレクトがONの間は、音量調節 (VOLUMEとATTボタン) のみ有効です。その他のオーディオ調節はできません。
- ・ 2チャンネルのリニアPCM または 2チャンネルのドルビーデジタルの音声で、ダイレクトモードをONにすると、フロントスピーカー (左右) 以外から音声は出力されません。

## ドルビープロロジックを使う

ドルビープロロジックでは、音の定位が鮮明になり、音の移動が自然に再生されるので、より立体的な音場を楽しむことができます。

### ドルビープロロジックのON/OFFについて

2チャンネルのリニアPCM または2チャンネルのドルビーデジタルの音声で、5.1チャンネルに適したSFC (Musical、Drama、Action) を選んだ場合、ドルビープロロジックをONにすることをおすすめします。また、2チャンネルに適したSFC (Jazz、Hall、Club) を選んだ場合、ドルビープロロジックをOFFにすることをおすすめします。

#### 1 AUDIO ボタンを押して、ドルビープロロジックモードを選ぶ



#### 2 ▲ ボタンを押して、ドルビープロロジックをONにする

▼ ボタンでOFFになります。



#### 3 BAND ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する

- 2チャンネルのモノラルソースを再生しているときにドルビープロロジックをONにすると、次の様な現象が起こることがあります。

- \* センタースピーカーを接続していないのに、センタースピーカーの設定を「SMALL」や「LARGE」にしている場合、音が出力されないことがあります。
- \* センタースピーカーを接続し、センタースピーカーの設定を「SMALL」や「LARGE」にしている場合、センタースピーカーからのみ音が出力されることがあります。

## 接続したスピーカーの 設定をする

### 各スピーカーの有無や サイズを設定する

スピーカーの接続の有無や接続したスピーカーのサイズ(低音域再生能力)の設定をすることができます。この設定により、スピーカーを接続していないために再生できないチャンネルの音を他のスピーカーから出力させたり、より再生に適したスピーカーから低音を出力させることができます。

#### スピーカーサイズについて

スピーカーサイズ設定は、100 Hz以下の周波数帯域を再生可能かどうかが目安になります。再生可能な場合は、「LARGE」に、再生不可能な場合は、「SMALL」に設定してください。

- 1 AUDIO ボタンを2秒以上押して、スピーカー設定モードを選ぶ



- 2 ◀または▶ ボタンを押して、設定したいスピーカーを選ぶ



ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

フロントスピーカー	センタースピーカー
リアスピーカー	サブウーファー
サブウーファー位相切り換え	

- 3 ▲または▼ボタンを押して、スピーカーの有無やサイズを設定する

各スピーカーの設定は、次の中から選ぶことができます。

スピーカーの種類	設定
フロント	SMALL/LARGE
リア	OFF/SMALL/LARGE
センター	OFF/SMALL/LARGE
サブウーファー	OFF/ON
サブウーファー位相切り換え	Normal/Rev.



- 4 BAND ボタンを押して、詳細設定モードを解除する

- ・ 接続していないスピーカーの設定は、必ず「OFF」にしてください。
  - ・ サブウーファーを接続していない場合、フロントまたはリアスピーカーに低音再生能力がある限り、スピーカー設定は「LARGE」を選んでください。フロントとリア両方のスピーカー設定を「SMALL」にすると、低音が著しく不足した感じになることがあります。
  - ・ 2チャンネルのモノラルソースを再生しているときにドルビープロロジックをONにすると、次の様な現象が起こることがあります。
    - \* センタースピーカーを接続していないのに、センタースピーカーの設定を「SMALL」や「LARGE」にしている場合、音が出られなことがあります。
    - \* センタースピーカーを接続し、センタースピーカーの設定を「SMALL」や「LARGE」にしている場合、センタースピーカーからのみ音が出られることがあります。
- サブウーファーをOFFにすると、サブウーファー位相切り換えには切り換わりません。

## サブウーファーの位相を切り換える

サブウーファーからの低音域の出力を調節しても低音域が良く聞こえてこなかったり、逆に小さくなったように感じた場合、他のスピーカーの低音域と打ち消し合っていることがあります。位相を切り換えることで、この現象を防ぎ低音域を聞きやすくすることができます。

- 1 AUDIO ボタンを 2 秒以上押して、スピーカー設定モードを選ぶ



- 2 ◀または▶ ボタンを押して、サブウーファー位相切り換えを選ぶ



ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

フロントスピーカー	センタースピーカー
リアスピーカー	サブウーファー
サブウーファー位相切り換え	

- 3 ▲または▼ ボタンを押して、サブウーファーの位相を切り換える

▲ : Normal (正相)

▼ : Rev. (逆相)



- 4 BAND ボタンを押して、詳細設定モードを解除する

サブウーファーを OFF にすると、サブウーファー位相切り換えには切り換わりません。



## カットオフ周波数を設定する

カットオフ周波数は、サブウーファーやスピーカーサイズを「SMALL」に設定したスピーカーの再生音域を設定します。サブウーファーからは、選んだ周波数より低い音域が出力されます。また、「SMALL」に設定したスピーカーからは、選んだ周波数より高い音域が出力され、カットされた低い音域はサブウーファーから出力されるようになります。サブウーファーを接続していない場合、カットされた低い音域は「LARGE」に設定したスピーカー（フロントまたはリア）から出力されるようになります。

- 1 AUDIO ボタンを 2 秒以上押してから、AUDIO ボタンを押し、カットオフ周波数モードを選ぶ



- 2 ◀または▶ ボタンを押して、カットオフ周波数を選ぶ

63、80、100、125、160、200 (Hz) の中から選ぶことができます。



- 4 BAND ボタンを押して、詳細設定モードを解除する

- ・ サブウーファーのLPFと、スピーカーサイズを「SMALL」に設定したスピーカーのHPF両方のカットオフ周波数を設定します。サブウーファーが「OFF」で、他のスピーカーのサイズが「LARGE」や「OFF」に設定されている場合、カットオフ周波数の設定は無効になります。

## スピーカーレベルを調節する

テストトーンで行った各スピーカーからの出力レベルを、実際の音声を聞きながらもう一度調節することができます。

- 1 AUDIO ボタンを 2 秒以上押してから、AUDIO ボタンを押し、スピーカーレベル調節モードを選ぶ



- 2 ◀または▶ ボタンを押して、調節したいスピーカーを選ぶ



ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

- フロントスピーカー (左)
- センタースピーカー
- フロントスピーカー (右)
- リアスピーカー (右)
- リアスピーカー (左)
- サブウーファー

- 3 ▲または▼ ボタンを押して、レベルを調節する

▲ : レベルを大きくするとき

▼ : レベルを小さくするとき

レベルは - 10 から + 10 の範囲で調節できます。



- 4 BAND ボタンを押して、詳細設定モードを解除する

- ・ このモードで調節した出力レベルは、テストトーンモードで調節したレベルと同じ値になります。
- ・ スピーカー設定モード (39 ページ) で「OFF」に設定したスピーカーを選ぶことはできません。

## テストトーンで スピーカーレベルを調節する

テストトーンを聞きながら、各スピーカーからの出力レベルを調節し、スピーカーシステム全体のバランスを整えます。

- 1 AUDIO ボタンを 2 秒以上押してから、AUDIO ボタンを押し、テストトーンモードを選ぶ



- 2 ▶ ボタンを押して、テストトーン出力を開始する



約 2 秒ずつ、次の順で切り換わり続けます。

- フロントスピーカー (左)
- センタースピーカー
- フロントスピーカー (右)
- リアスピーカー (右)
- リアスピーカー (左)
- サブウーファー

- 3 ▲ または ▼ ボタンを押して、レベルを調節する

▲ : レベルを大きくするとき

▼ : レベルを小さくするとき

レベルは - 10 から + 10 の範囲で調節できます。



- 4 ◀ ボタンを押して、テストトーン出力を停止する



- 5 BAND ボタンを押して、詳細設定モードを解除する

- ・ このモードで調節した出力レベルは、スピーカーレベル調節モードで調節したレベルと同じ値になります。
- ・ スピーカー設定モード (39 ページ) で「OFF」に設定したスピーカーには切り換わりません。
- ・ レベルを調節している間、テストトーンは次のスピーカーには切り換わりません。

## タイムアライメントを調節する

各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節することで、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調節することができます。リスニングポジション(35ページ)を設定することで、自動的に設定されますが、タイムアライメントではさらに厳密な調節をすることができます。

### タイムアライメントを調節するには

リスニングポジションモード(35ページ)でF/LかF/Rを選んでいないと、タイムアライメント調節モードには切り換わりません。

- 1 AUDIO ボタンを2秒以上押してから、AUDIO ボタンを押し、タイムアライメント調節モードを選ぶ



- 2 ◀または▶ ボタンを押して、調節したいスピーカーを選ぶ



ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

- フロントスピーカー(左)
- センタースピーカー
- フロントスピーカー(右)
- リアスピーカー(右)
- リアスピーカー(左)
- サブウーファー

- 3 ▲または▼ボタンを押して、距離を調節する

▲ : 距離を遠くするとき

▼ : 距離を近くするとき

距離は0.0 cmから500.0 cmの範囲で調節できます。



- 4 BAND ボタンを押して、詳細設定モードを解除する

- ・ スピーカー設定モード(39ページ)で「OFF」に設定したスピーカーを選ぶことはできません。

## イコライザーカーブを使う

### イコライザーカーブを選ぶ

あらかじめ用意されているイコライザーカーブの中から、お好みのイコライザーカーブを選ぶことができます。

#### CUSTOM1 について

“CUSTOM1”には、お好みに合わせて調節したイコライザーカーブがソースごとに記憶されます。

#### CUSTOM2 について

“CUSTOM2”は、すべてのソースに共通したイコライザーカーブで、お好みに合わせて調節することができます。

#### FLAT について

イコライザーによる音の補正はされていません。設定したイコライザーカーブと交互に切り換えることで、設定したイコライザーカーブの効果を確認することができます。

### 1 EQ ボタンを押して、イコライザーカーブを切り換える



ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

POWERFUL NATURAL VOCAL  
FLAT CUSTOM1  
CUSTOM2 SUPER BASS  
POWERFULに戻る

## 3 バンドパラメトリックイコライザーを調節する

“CUSTOM1”と“CUSTOM2”は、フロント/リア/センターのイコライザーカーブを別々に調節することができます。各スピーカーのバンドごとに中心周波数を設定し、レベル調節やカーブの傾きの切り換えを行うことができます。

### 3 バンドパラメトリックイコライザーを調節するには

“CUSTOM1”または“CUSTOM2”以外のイコライザーカーブを選んでいる場合、イコライザー調節モードには切り換わりません。

#### イコライザーの調節について

センタースピーカーは、音像を定位させるのに影響が大きいスピーカーです。このため、他のスピーカーと同時にバランスをとるのは、とても難しい作業です。全体のバランスをとるため、2チャンネルの音声（CD など）を再生し、センターを除く全てのスピーカーのバランスを調節した後、5.1チャンネルの音声（ドルビーデジタルやDTS）を再生し、センタースピーカーを全体のバランスに合わせるように調節すると、スムーズに行うことができます。

#### 中心周波数について

各バンドの中心周波数は、20種類の周波数の中から選ぶことができます。周波数は、1/3オクターブずつのステップで切り換えることができますが、各バンドの中心周波数の間隔を1オクターブ未満に設定することはできません。

次ページへつづく

- 1 AUDIO ボタンを2秒以上押してから、AUDIO ボタンを押し、イコライザー調節モードを選ぶ



- 2 ◀または▶ ボタンを押して、調節したい項目を選ぶ



ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

スピーカー	バンド	中心周波数
レベル	カーブの傾き	

- 3 ▲または▼ ボタンを押して、調節したいスピーカーを選ぶ

FRONT (フロント)、CENTER (センター)、REAR (リア) の中から選ぶことができます。



- 4 ▶ ボタンを押してから、▲または▼ ボタンを押して、バンドを選ぶ

Low (低音)、Mid (中音)、High (高音) の中から選ぶことができます。



- 5 ▶ ボタンを押してから、▲または▼ ボタンを押して、中心周波数を選ぶ

▲ : 高い周波数を選ぶとき

▼ : 低い周波数を選ぶとき

100、125、160、200、250、315、400、500、630、800、1k、1.25k、1.6k、2k、2.5k、3.15k、4k、5k、6.3k、8k (Hz) の中から選ぶことができます。



- 6 ▶ ボタンを押してから、▲または▼ ボタンを押して、レベルを調節する

▲ : 強めるとき

▼ : 弱めるとき

レベルは-6 から +6 の範囲で調節できます。



- 7 ▶ ボタンを押してから、▲または▼ ボタンを押して、カーブの傾きを選ぶ

▲ : Q.WIDE (緩やかな傾き)

▼ : Q.NAR. (急な傾き)



**8** 手順 2 ~ 7 を繰り返して、各スピーカーの各バンドを同様に調節する

**9** BAND ボタンを押して、オーディオ詳細設定モードを解除する

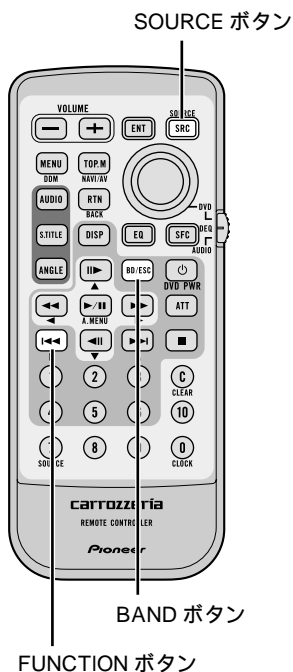
- ・ スピーカー設定モード (39 ページ) で「OFF」に設定したスピーカーを選ぶことはできません。

## 初期設定

## 初期設定モードの切り換えかた

## リモコンの操作モードが DEQ モードの場合

- ・リモコンの操作モードが DEQ モードの場合、初期設定をすることができます。リモコンの操作モードが DVD モードや AUDIO モードの場合は操作ができません。



- 1 SOURCE ボタンを 2 秒以上押し、本機の電源を OFF にする  
(「電源を OFF にする」17 ページ)
- 2 電源が OFF のときに、FUNCTION ボタンを 2 秒以上押し、初期設定モードにする  
初期設定モードが表示されます





### 3 FUNCTION ボタンを押して、初期設定モードを切り換える

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

時計調節モード (50 ページ)

ディマーモード (51 ページ)

ブライต์モード (51 ページ)

デジタルアッテネーターモード  
(52 ページ)

TEL ミュート/アッテネートモード  
(52 ページ)

AUX (外部機器) モード (53 ページ)

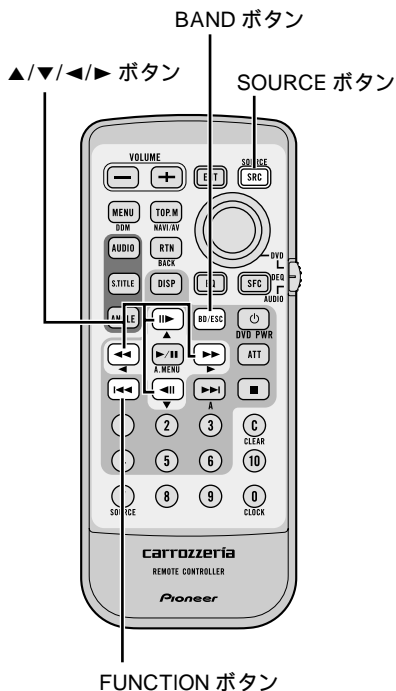
デジタル入力設定モード (54 ページ)

アナログ入力設定モード (54 ページ)

時計調節モードに戻る

- ・ 初期設定モードを解除するには、BAND ボタンを押します。(解除すると、電源が OFF になります。)

# 初期設定



## 時計を合わせる

時計を合わせることができます。

- 1 電源がOFFのときにFUNCTION ボタンを2秒以上押して、時計調節モードを選ぶ



- 2 時計を設定する

時または分を選ぶ

◀または▶ ボタンを押して、時または分を選ぶ

押すごとに、時または分が切り換わります。



時刻を合わせる

▲または▼ボタンを押して、時刻を合わせる

▲：時刻を進めるとき

▼：時刻を戻すとき

分を調節すると、0秒からカウントが始まります。

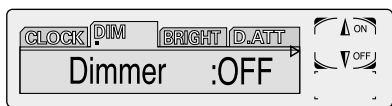


- 3 BAND ボタンを押して、初期設定モードを解除する

## 夜間のディスプレイの明るさを調節する

夜間、周囲が暗くなったときにディスプレイがまぶしくならないように、車のライトをONにするとディマーが働き、ディスプレイが暗くなります。

- 1 電源がOFFのときにFUNCTIONボタンを2秒以上押してからFUNCTIONボタンを押して、ディマーモードを選ぶ



- 2 ▲ボタンを押して、ディマーをONにする

▼ボタンでOFFになります。



- 3 BANDボタンを押して、初期設定モードを解除する

## ディスプレイの明るさを調節する

ディスプレイの明るさを調節することができます。

- 1 電源がOFFのときにFUNCTIONボタンを2秒以上押してからFUNCTIONボタンを押して、ブライトモードを選ぶ



- 2 ◀または▶ボタンを押して、明るさを調節する

◀ : 暗くしたいとき

▶ : 明るくしたいとき

0から15の範囲で調節できます。



- 3 BANDボタンを押して、初期設定モードを解除する

## 音の歪みを補正する

イコライザーカーブの調整による音の歪みを抑制することができます。

- 1 電源がOFFのときに、FUNCTION ボタンを2秒以上押してから、FUNCTION ボタンを押して、デジタルアッテネーターモードを選ぶ



- 2 ◀または▶ ボタンを押して、デジタルアッテネーターの設定を選ぶ

▶ : HI

◀ : LOW



- 3 BAND ボタンを押して、初期設定モードを解除する

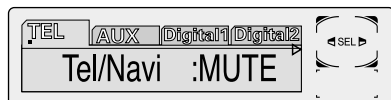
・イコライザーカーブの設定で、レベルを高く設定した周波数の音域が歪むことがあります。イコライザーカーブの設定で音が歪んだように感じたときは、「LOW」に切り換えてください。(通常は音質が優れている「HI」のままお使いください。)

## ミュート/アッテネート切り換え

ミュート機能のある製品(パイオニア製ナビゲーションシステム「AVIC-DRV150」など)と本機を組み合わせると、その製品からミュート信号を受け取っているときだけ、ミュートまたはアッテネート機能が働きます。ミュート機能が働いているときの音量は“0”で、アッテネート機能が働いているときの音量は、元の音量の約1/10です。

ミュートまたはアッテネート機能が解除されると、自動的に元の音量に戻ります。

- 1 電源がOFFのときにFUNCTION ボタンを2秒以上押してからFUNCTION ボタンを押して、TEL ミュート/アッテネートモードを選ぶ



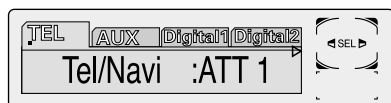
- 2 ◀または▶ ボタンを押して、信号入力時の設定を選ぶ

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

MUTE (ミュート)

ATT1 (10 dB アッテネート)

ATT2 (20 dB アッテネート)



- 3 BAND ボタンを押して、初期設定モードを解除する

## 外部機器の音声を聞く

本機にDATやVTRなどの外部機器を接続すると、その音声を聞くことができます。

### 外部機器との接続について

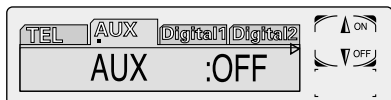
別売のRCA/IP-BUSインターコネクター「CD-RB20」または「CD-RB10」を使うと、RCA出力のあるDATやVTRを、外部機器として本機に接続することができます。詳しくは、RCA/IP-BUSインターコネクターの説明書をご覧ください。

### パイオニア製ナビゲーションユニットを接続した場合

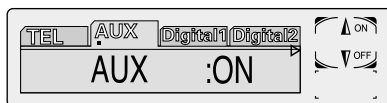
本機にパイオニア製ナビゲーションユニット（「AVIC-XH9」、「AVIC-DRV150」など）を接続している場合、本機のAUX（外部機器）設定をONにし、ソース切り換えでAUXソースにすると、ナビゲーションの音声が車両のスピーカーから出力されます。

本機にパイオニア製ナビゲーションユニット（「AVIC-ZH9MD」、「AVIC-V7MD」など）を接続している場合は、本機のAnalog（アナログソース）設定をRCAにし、ソース切り換えでアナログソースにすると、ナビゲーションの音声が車両のスピーカーから出力されます。

- 1 電源がOFFのときにFUNCTIONボタンを2秒以上押してからFUNCTIONボタンを押して、AUX（外部機器）モードを選ぶ



- 2 ▲ボタンを押して、AUX（外部機器）の設定をONにする  
▼ボタンでOFFになります。



- 3 SOURCEボタンを押して、ソースをAUXに切り換える（15ページ）  
ソースをAUXに切り換えると、外部機器の音声が出力されます。



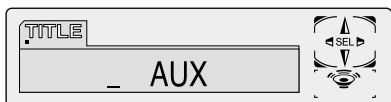
## 外部機器の名称を入力する

接続した外部機器の名称を入力することができます。

- 1 SOURCE ボタンを押して、ソースを AUX に切り換える (15 ページ)



- 2 FUNCTION ボタンを 2 秒以上押して、外部機器の名称入力モードを選ぶ



- 3 外部機器の名称を入力し、記憶させる

CD タイトル入力の手順 2 ~ 6 を参照し、同様の操作で外部機器の名称を記憶させてください。(27 ページ)

外部機器の名称は、8 文字まで入力することができます。

例) “ DAT ” を入力した場合



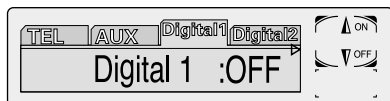
“ AUX ” の表示のかわりに、入力した名称が表示されます。

## デジタル入力を設定する

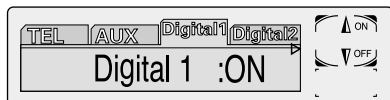
本機にパイオニア製ナビゲーションユニット (「AVIC-XH9」など) を接続したときに、デジタルソースとして使用することができます。

Digital1 は初期設定で ON になっています。

- 1 電源が OFF のときに FUNCTION ボタンを 2 秒以上押してから FUNCTION ボタンを押して、デジタル入力設定モード (Digital1) を選ぶ



- 2 ▲ ボタンを押して、デジタル入力 (Digital1) の設定を ON にする  
▼ ボタンで OFF になります。



- 3 手順 1 ~ 2 を参照し、同様の操作でデジタル入力 (Digital2) を ON にする

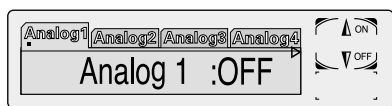
- 4 BAND ボタンを押して、初期設定モードを解除する

- Digital1 と Digital2 は、独立して ON/OFF することができます。

## アナログ入力を設定する

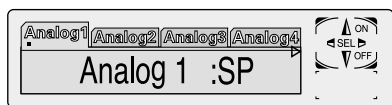
本機のスピーカ入力端子またはRCA入力端子に様々な機器を接続することができます。接続方法に応じて、アナログ入力の設定を切り換えてください。

- 1 電源がOFFのときにFUNCTIONボタンを2秒以上押してからFUNCTIONボタンを押して、アナログ入力設定モード (Analog1) を選ぶ



- 2 ▲ ボタンを押して、アナログ入力 (Analog1) の設定をONにする

▼ ボタンでOFFになります。

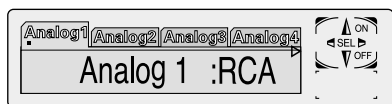


- 3 ◀または▶ ボタンを押して、接続方法の設定を選ぶ

▶ : RCA (RCA入力端子)

◀ : SP (スピーカ入力端子)

本機のスピーカ入力端子に接続しているときは、「SP」を、RCA入力端子に接続しているときは「RCA」を選んでください。



- 4 手順1～3を参照し、同様の操作でアナログ入力 (Analog2～Analog6) を設定する

- 5 BANDボタンを押して、初期設定モードを解除する

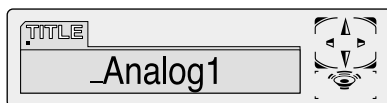
## デジタル/アナログソースの名称を入力する

デジタルソースやアナログソースの名称を入力することができます。

- 1 SOURCEボタンを押して、名称を入力したいソース (Digital1、2またはAnalog1～6) に切り換える (15ページ)



- 2 FUNCTIONボタンを2秒以上押して、デジタル/アナログソースの名称入力モードを選ぶ

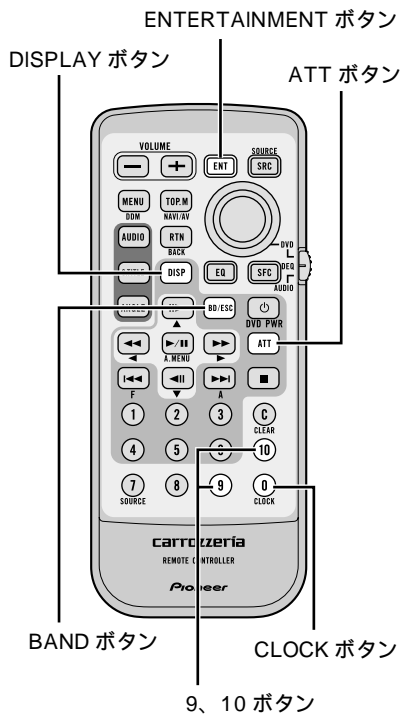


- 3 名称を入力し、記憶させる

CDタイトル入力の手順2～6を参照し、同様の操作でデジタル/アナログソースの名称を記憶させてください。(27ページ)

デジタル/アナログソースの名称は、8文字まで入力することができます。

その他の機能



瞬時に音量を小さくする

車内の会話が聞き取りにくいときに、瞬時に音量を小さくすることができます。

- 1 ATT ボタンを押して、瞬時に音量を小さくする (10 ページ)

音量が約 1/10 になります。

もう一度押すと、OFF になります。



アッテネーターが ON のときに点滅します。



## 時計を表示させる

本機の電源のON/OFFに関わらず、時計を表示させることができます。

### 1 CLOCK ボタンを押して、時計を表示する

もう一度押すと、OFFになります。



時計表示

- ・ 本機の電源がONの場合は、時計表示のときに他の操作をすると、時計表示は一度解除されます。その場合、5秒後に時計表示に戻ります。
- ・ 時計を合わせるには（「時計を合わせる」50ページ）

## エンタテインメント表示させる

音楽などを聴いているときに、ディスプレイの表示をエンタテインメント表示に切り換えることで、いろいろな表示を楽しむことができます。

### 1 ENTERTAINMENT ボタンを押して、エンタテインメントを表示する

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

ソースアイコン (再生時間表示)

バックグラウンドビジュアルモード 1

バックグラウンドビジュアルモード 2

バックグラウンドビジュアルモード 3

バックグラウンドビジュアルモード 4

ムービースクリーンモード 1  
(ドリームタイム)

ムービースクリーンモード 2  
(トワイライト)

エンタテインメントクロック

表示OFF

ソースアイコン (再生時間表示) に戻る

## リモコンコードの設定

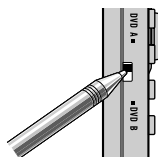
本機とパイオニア製ナビゲーションユニットを組み合わせたときに、付属のリモコンでパイオニア製ナビゲーションユニットをコントロールするために、リモコンコードの設定をします。

リモコンコードには、コードA、コードB、コードAUDIO1、およびコードAUDIO2があります。

コード設定	設定内容
コードA	付属のリモコンでパイオニア製DVDプレーヤー（「XDV-P9II」など）を操作するときは、この設定にします。
コードB	付属のリモコンでパイオニア製HDDナビゲーションサーバー（「AVIC-H9」など）を操作するときは、この設定にします。
コードAUDIO1	付属のリモコンでパイオニア製7.0型ワイドTV/MD・DSP AVパワーユニット（「AVIC-V7MD」など）を操作するときは、この設定にします。
コードAUDIO2	付属のリモコンでパイオニア製7.0型ワイドTV付DVD/CDユニット内蔵HDDナビゲーションシステム（「AVIC-XH9」など）に付属のTVを操作するときは、この設定にします。

## コードAとコードBの切り換え

- 1 リモコンの操作モード切り換えスイッチをDVDモードにする
- 2 リモコン左側面にある。リモコンコード切り換えスイッチを、ペン先などで切り換える



## コードAUDIO1とコードAUDIO2の切り換え

- 1 リモコンの操作モード切り換えスイッチをAUDIOモードにする
- 2 リモコンの数字ボタン9と10を同時に押す



数字ボタン9と10を同時に押すごとに、コードAUDIO1とコードAUDIO2が順に切り換わります。  
(初期設定はコードAUDIO1です。)

- ・ 操作したい機器のコードの設定と、本機に付属のリモコンコードの設定は同じにしてください。設定が異なっていると操作ができません。

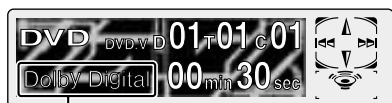
## デジタル出力の情報を表示させる

本機にパイオニア製 DVD プレーヤー (「XDV-P9II」など) を接続した場合、デジタル出力の情報を画面に表示することができます。

### 1 DISPLAY ボタンを押して、デジタル出力の情報を表示させる

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

再生時間表示      デジタル出力情報表示  
再生時間表示に戻る



デジタル出力表示

ドルビーデジタル再生時は、“Dolby Digital”が表示され、DTS再生時は“dts”が表示されます。

- ・ビデオCD再生時は、デジタル出力情報表示には切り換わりません。

## 故障かな?と思ったら

故障かな?と  
思ったら

修理を依頼される前に、  
次の表の内容をチェック  
してください。

チェックしても  
直らないときは

「保証書とアフターサービ  
ス」(171ページ)をお読  
みになり、修理を依頼し  
てください。

症状	原因	処置
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクタが正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているかどうか、もう一度確認してください。 (「取付説明書」参照)
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を解決し、切れたヒューズを同じ容量のヒューズと交換してください。 (「取付説明書」参照)
ディスプレイが反転表示する。	リバースモードがONになっている。	リバースモードを解除してください。(13ページ)
リモコンで操作できない。 操作にあった正しい動作をしない。	リモコンの操作モードが間違っている。	リモコンの操作モードを正しく切り換えてください。 (12ページ)
	リモコンコードが異なっている。	リモコンコードを正しく切り換えてください。(58ページ)
	電池が弱っている。	新しい電池に交換してください。 (12ページ)
SOURCE ボタンを押しても警告音が鳴り、ソース切り換えができない。	ソースが一つも接続されていない。	ソースを接続してください。 (「取付説明書」参照)
	パイオニア製DVDプレーヤー(「XDV-P9II」、「SDV-P7」など)だけを接続していて、DVDプレーヤーにマガジンやディスクがセットされていない。	パイオニア製DVDプレーヤー(「XDV-P9II」、「SDV-P7」など)にマガジンやディスクをセットしてください。
音が出ない。	音量を下げている。	音量を上げてください。 (16ページ)
	アッテネーターがONになっている。	アッテネーターを解除してください。 (56ページ)
	前後左右の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。 (35ページ)
	接続が間違っている。	正しく確実に接続されているかどうか、もう一度確認してください。 (「取付説明書」参照)

症状	原因	処置
音が出ないスピーカーがある。	スピーカーサイズの設定がOFFになっている。	接続しているスピーカーのサイズを正しく調節してください。(39ページ)
	スピーカーのレベル設定が極端に小さくなっている。	他のスピーカーのレベルとバランスをとってください。(42ページ)
	センタースピーカーを接続していない状態で、センタースピーカーのサイズをSMLやLRGにしている。	センタースピーカーのサイズ設定をOFFにしてください。(39ページ)
スピーカーの調節ができない。	スピーカーのサイズ設定がOFFになっている。	接続しているスピーカーのサイズを正しく設定してください。(39ページ)
タイムアライメントの調節ができない。	リスニングポジションの設定が間違っている。	リスニングポジションを正しく設定してください。(35ページ)
	スピーカーのサイズ設定がOFFになっている。	接続しているスピーカーのサイズを正しく設定してください。(39ページ)
サブウーファーの位相が切り換えられない。	サブウーファーの設定がOFFになっている。	サブウーファーの設定をONにしてください。(39ページ)
低音域が聞こえない。	サブウーファーの設定がOFFで、それ以外のスピーカーのサイズ設定もOFFやSMLになっている。	正しく設定してください。(サブウーファーを接続していない場合、フロントまたはリアスピーカーのサイズ設定は、LRGにしてください。)(39ページ)
ドルビープロロジックをONにすると、音が出ないときがある。	センタースピーカーを接続していない状態で、センタースピーカーのサイズ設定をSMLやLRGにしている。	センタースピーカーのサイズ設定をOFFにしてください。(モノラル音声の場合、ドルビープロロジックをONにすると、センタースピーカーからのみ音を出力するようになります。)(39ページ)
センタースピーカー以外のスピーカーから音が出ないときがある。	ドルビープロロジックがONになっている。	ドルビープロロジックをOFFにしてください。(モノラル音声の場合、ドルビープロロジックをONにすると、センタースピーカーからのみ音を出力するようになります。)(38ページ)
ダイナミックレンジコントロールをONにしても効果がない。	再生しているソースがドルビーデジタル音声でない。	ドルビーデジタル音声にだけ有効な機能です。(36ページ)
DVDの音だけ出ない。	光デジタルケーブルが外れている。	「DEQ-P7」に、光デジタルケーブルを正しく接続してください。(「取付説明書」参照)

## こんなメッセージが表示されたら

メッセージ(エラー番号)	メッセージが表示されるとき	処置
「ERROR-02」	ディスクが汚れているとき。 ディスクにキズやひびがあるとき。	ディスクの汚れをふき取ってください。 ディスクを交換してください。
「TEMP」	別売のDVDプレーヤーの内部温度に異常があるとき。	別売のDVDプレーヤーが正常に動作する温度になるまでお待ちください。
「ERROR-10」	リージョン番号が異なるディスクを使用しているとき。	リージョン番号「2」を含むDVDに交換してください。
「NON PLAY」	ディスクの裏表を逆にしてセットしているとき。  別売のDVDプレーヤーでは再生できないディスク (DVD AUDIOなど) を使用しているとき。	ディスクのタイトル面を上にしてセットしてください。  別売のDVDプレーヤーで再生できるディスクに交換してください。
「ERROR-05」	電気系、機構系の故障が考えられるとき。	車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、ディスク再生を一度やめてから、もう一度ディスク再生にしてください。

マルチCD再生中に、上記以外のエラーメッセージが表示されたときは、マルチCDの説明書をご覧ください。

# 保証書とアフターサービス

## 保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

## 保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

## 保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。所在地、電話番号は本機に付属の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

## 保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

## 補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。(性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

## ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

## 仕様

スペック

## 共通部

使用電源：

DC 14.4 V (10.8 ~ 15.1 V 使用可能)

アース方式：

マイナスアース方式

最大消費電流：

0.25 A

ディスプレイ部

(外形寸法)

119 (W) × 37 (H) × 20 (D) mm

(質量)

0.1 kg (コード含まず)

ハイダウェイ部

(外形寸法)

100 (W) × 28 (H) × 136 (D) mm

(質量)

0.3 kg

## 付属品

リモコン

(リチウム電池 (CR2025)付き) : 1

電源コード : 1

取付ネジ類 : 1 式

取扱説明書 : 1

取付説明書 : 1

安全上のご注意 : 1

保証書 : 1

ご相談窓口・修理窓口のご案内 : 1

- ・ 上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。











この説明書の印刷には、植物性大豆油インキを使用しています。

## ご購入後の製品の修理・取り扱いのご相談は、お買い求めの販売店へお問い合わせください

修理のご依頼は、取扱説明書の『故障かな?と思ったら』の項目をご確認のうえ、お買い求めの販売店へご相談ください。取り付け・組み合わせなどのお問い合わせにつきましても、お買い求めの販売店へご相談・ご相談ください。

### 下記窓口へのお問い合わせ時のご注意

市外局番「0070」で始まるフリーフォンおよび「0120」で始まるフリーダイヤルは、PHS、携帯電話、自動車電話、列車公衆電話、船舶電話、ピンク電話および海外からの国際電話ではご利用になれません。また、一般電話は携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。あらかじめご了承ください。

### 安全上のご注意

携帯電話などの走行中の使用などの禁止に関する規定が、改正道路交通法（法第71条第5号の5）にて施行されています。自動車または原動機付自転車（原付）からの、携帯電話などによる発信・応答・通話は、安全な場所に止めてからご利用ください。

## 製品のご購入や取り扱いについてのご相談窓口

### カスタマーサポートセンター（全国共通フリーフォン）

受付 月曜～金曜 9:30～17:00、土曜 9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休日は除く）

カーオーディオ/カーナビゲーション製品のご相談窓口： **0070-800-8181-11**  
**03-5496-8016**（一般電話）

カタログのご請求窓口： **0070-800-8181-33**  
ファックス：**03-3490-5718**

### バイオニアホームページでのご案内

商品に関する「よくあるお問い合わせ」FAQのご案内 <http://www.pioneer.co.jp/support/faq/index.html>  
カタログ請求とメールサービス登録のご案内 <http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg/index.html>

## 部品のご購入についてのご相談窓口

付属品（リモコン・取扱説明書など）のご購入に関するご相談については、部品受注センターにご相談ください。

### 部品受注センター（フリーダイヤル）

受付 月曜～金曜 9:30～18:00、土曜 9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休日は除く）

電話： **0120-5-81095**  
**0538-43-1161**（一般電話）

ファックス： **0120-5-81096**

## ご贈答品などの修理についてのご相談窓口

修理のお問い合わせは、取扱説明書の『故障かな?と思ったら』の項目をご確認のうえお問い合わせください。ご転居されたり、ご贈答品などで、お買い求めの販売店に修理のご依頼ができない場合は、下記の修理受付センターにご相談ください。

### 修理受付センター（沖縄県を除く全国）（フリーダイヤル）

受付 月曜～金曜 9:30～18:00、土曜 9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休日は除く）

電話： **0120-5-81028**  
**03-5496-2023**（一般電話）

ファックス： **0120-5-81029**

### 沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）

受付 月曜～金曜 9:30～18:00（土曜・日曜・祝日・弊社休日は除く）

電話：**098-879-1910**（一般電話）  
ファックス：**098-879-1352**

パイオニア株式会社

〒153-8654 東京都目黒区目黒 1-4-1

この説明書は、再生紙を使用しています。

©パイオニア株式会社 2003

<KSNZF/03D00000> <CRA3488-B>